



希 望

多治見市立笠原中学校
令和7年度 学校だより『希望』
第11号 令和8年1月28日(水)発行

Last spurt (ラストスパート)

校長 熊崎 健一

『一月往ぬる、二月逃げる、三月去る(イチゲツイヌル、ニゲツニゲル、サンゲツサル)』。生徒にはあまり馴染みのない言葉かもしれませんが、みなさんはどこかで耳にし、ご存じの方も多いかと思えます。これは、お正月から3月にかけては恒例行事が多く、あっという間に時間が過ぎていくことの喩えとして使われる言葉です。学校の時の流れも同様で、1月は冬休み明け集会に始まり、期末テスト(3年生)、認知症サポート講座(1年生)、出張文化ホール・和太鼓演奏会(1・2年生)、NOVA グローバルアドベンチャー(2年生)、実力テスト(1・2年生)などを行ってきました。中でも3年生は、入試に向けた面接練習も始まり、緊張感のある毎日を送っています。2月も各学年の行事や取組が続きますし、21日(土)には、閉校記念行事を実施します(記念講演会の講師は、近日中に発表しますので乞うご期待!)。また、閉校記念行事の一環として、生徒会主催の『地域へ感謝を伝える会』も企画が進行中です。毎日の授業を中心とした学校生活に加え、様々な行事や取組がありますので、うかうかしているときと2月は“逃げる”ように過ぎ去っていくことでしょう。そして、3月になれば卒業式・修了式は、もうすぐそこ。年度末に向けて慌ただしい日々が続いていきますが、生徒には目の前の事柄にしっかりと向き合い、来年度へつなげる一日一日を大切に過ごして欲しいと願っています。和太鼓“匠巻の共演”



冬休み明けからスタートした第5期は『継承・感謝』がテーマです。冬休み明け集会では、次のような話をしました。

3年生は、義務教育9年間を修了する卒業式が近づいています。1・2年生は、今年度を締めくくるとともに、来年度、笠原小中学校開校への準備を整える大切な時間となります。『継承』。各学級・学年の活動、全校の活動の何をどんな形で学校文化として継承していくのか?そして、継承したものを、来年度さらに発展させていこうとするビジョンをどう描くのか?『感謝』。自分や仲間が成長できたことに関わって、誰に、何を感謝するのか?そして、その感謝の気持ちをどう伝えていくのか?

第5期は短い期間ですが、みなさんが、これまで第1期から積み上げてきたものをどのような形でまとめ上げていくかに期待しています。そのためには、やはり「目の前のことを何のためにやっているか」や「これまで何のためにやってきたのか」を一人一人が意識・整理し、今年度のまとめに向かっていくことが大切です。常に目的意識をもって取り組むのと、ただ何となく一日一日を過ごすのでは、時間の“濃さ”が違います。内容の濃い意味ある時間を創っていくその先にこそ、新年度の明るいスタートが待っているわけです。4月になったら何かが良い方向に向かっているわけではありません。今、自分や自分たちの未来を、自分や自分たちのアイデアと努力によって変えていくのが第5期です! ※一部抜粋



マラソンに例えるなら、現在位置は35kmから40km地点あたりでしょうか?心身ともにキツイ一方で、ゴールが近づいていることを肌で感じることもできます。いよいよ、ラストスパート!最後の力を振り絞り、前へ前へと力強く脚を運ぶその先に、きっと達成感や満足感、大きな喜びが待っているはず。『継承』と『感謝』を成し遂げ、3年生は新たな進路へ、1・2年生は新しい学校のスタートへと勢いづきたいものです。



～ 多治見市【親育ち4・3・6・3たじみプラン】親育ちコラム ～ 『親からもらった最高のプレゼント』

私は5人兄弟の末っ子として、高度経済成長のまっただ中で育ちました。世の中の高揚感、子供の感性にもどこか華やかに伝わりました。玩具屋さんのショーウィンドウには、海外製も含めた魅力的なおもちゃがこれでもかと並びます。バービー、リカちゃん、レーシングカー、プラレールに光線銃。そのきらめきがまぶしくて、恐る恐るねだってみますが、「辛抱せなかん!」。両親からは、大抵はこの一言で片づけられました。だからごくたまに、お祭りの夜店などで、小さなおもちゃを買ってもらえた時には、まるで夢見心地でした。心が震えるほど嬉しかったあの感覚は、今も覚えています。

景気のいい自営業のお家の友達が、誇らしげに、次々に新しいおもちゃを見せてくれるのがうらやましくなかったと言えます。嘘になります。しかし、いつの頃からか、あの日々の両親は、私にとっても大きなものをくれたのだと思うようになりました。小さなおもちゃを、心が震えるほどうれしいと思うことができたのは、「辛抱」の体験があったからではないのか。そのことで、ささやかな幸せを、最大の感激や喜びに変換することができる「感性」が育てられたとしたならば、それこそが、両親が私にくれた最高のプレゼントなのだ、今は心から思っています。【教育推進課 家庭教育担当】